

みんなできつくりよう 市民トーク

市の取り組みをみんなで共有

今年も「みんなできつくりよう 市民トーク」が市内10会場で開催され、713人の皆さんが参加しました。今回の市民トークでは、これまでの市政12年間の取り組みを振り返りつつ、今年度の主要事業について説明しました。また、各地区が説明を希望する地域の課題や、参加者からの質問票に回答しました。

問い合わせ 秘書広報課 小林 〆(23) 0052

市長の市政説明

市政12年間の取り組み

全国的にも人口が減少する中であって、市の財政状況は着実に改善されています。

合併当時、県内ワースト1で21.4%あった実質公債費率（収入に対する負債返済割合）は、昨年度で9.9%となりました。

財政調整基金（市の貯金）も9.4億円から32.4億円まで積み増しています。市債（市の借金）は19.1億円とほぼ横ばいですが、国の交付税対象となる有利なものに置き換えています。

災害に強いまちづくり

平成23年に起こった東日本大震災は、それまでの常識を覆す大災害となりました。

市民の皆さんと共に策定した津波防災まちづくり計画に基づき、8月には大江地区防災公園や静波11丁目の津波避難タワーが完成しました。

計画した津波避難施設など32カ所のうち21カ所が完成し、残り11カ所は平成30年度末までに完成する予定です。引き続きソーラー照明灯などの整備を進めながら、地頭方地区から工事が進められている、レベル1防潮堤の早期完成を強く要望していきます。



大江地区防災公園（いのち山）が完成

また、懸案となっていた細江地区の浸水対策では、国の補助事業への採択に必要な河川整備計画を策定し、遊水地の整備や河川改修などの対策を行います。高性能排水ポンプ車も配備していきますので、機場と合わせ効果的に活用していきます。

高台開発、空港

相良牧之原インターチェン

公共施設マネジメント

市では今ある公共施設について、今後20年間で総延べ床面積の約20%縮減を目標に、「牧之原市公共施設マネジメント基本計画」を昨年度に策定しました。

近い将来、市が保有する公共施設が順次老朽化を迎える中、「将来に希望が持てる魅力あるまち」の実現のためにも、公共施設の最適化は急務といえます。

まずは先導的な施設として、旧片浜小学校の利活用を具体的に進めていきます。



旧片浜小学校の活用を進めていく

移住定住、広域行政

移住・定住を促進するため、市では住宅取得費用やリ

フォーム費用、家賃などの助成事業を行っています。今年度は申請件数も増加し、空き家バンクの利用も含め順調に実績が伸びています。こうした施策は自治体間の競争により、差別化が難しくなっています。競争するよりもお互いに協力し、観光PRや人口問題により大きな圏域で立ち向かい、地域全体が活性化することが重要です。

昨年度から始まった3市2町の消防広域化では、到着時間が短縮されるなど大きな成果が得られています。

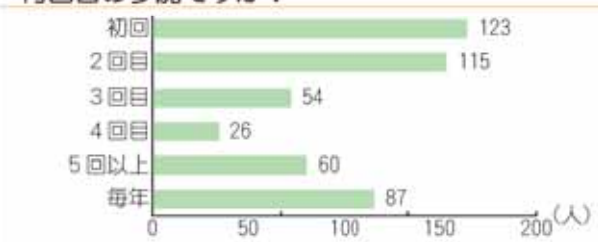
アンケート結果

今後の取り組みに活用するため、会場でアンケート調査を実施しました。（回答者数：469人）

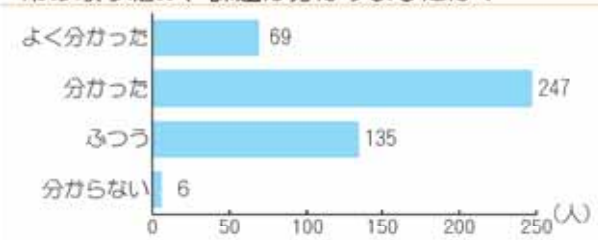
あなたの年齢は？



何回目の参加ですか？



市の取り組み、課題が分かりましたか？



各会場データ（地区希望した市政内容・質問や意見、参加人数）

地区	実施日	地区が希望した市政内容・質問や意見（主なもの）	人数
萩間	6月29日(日)	▶萩間小学校関係（グラウンド芝生化や保育園との交流、自校給食など）▶診療所や内科医院の開設▶絆づくり事業▶広域農道の補修▶萩間公民館の運営▶高台開発▶土砂災害対策▶商業施設▶男女の出会いの場▶公園や河川、歩道の整備▶役員の負担	70人
牧之原	7月3日(日)	▶矢崎西門前の横断歩道廃止▶高台開発▶県道桑原菊川線の拡幅や速度規制▶工業団地大型車両のバイパス利用	73人
片浜	5日(日)	▶旧片浜小学校の利活用▶自転車道海側市有地の管理▶国道150号線側溝の清掃▶促進住宅の経緯	44人
相良	7日(日)	▶生活弱者（高齢者）に対する施策▶通学路車道外側線の明確化▶原子力防災対応の公民館建設▶津波避難路▶夜間の津波避難対策▶空き家対策▶市営大原住宅▶緑と文化の丘公園用地の活用▶大江の冷蔵庫断熱材問題	92人
菅山	10日(日)	▶菅山区公民館の駐車場▶太陽光発電事業▶市営住宅の老朽化▶消防団員のなり手不足▶市民ファースト▶河川しゅんせつと橋の老朽化対策▶菅ヶ川河川美化計画	69人
地頭方	12日(日)	▶高台移転▶消防団詰所の統廃合▶トーク地頭方の整備▶火災時のサイレン吹鳴と同報無線▶大江地区一般廃棄物業者強制執行▶環境保全センター▶御前崎白羽・地頭方地区防災連絡会議	69人
川崎	18日(日)	▶公共施設マネジメント（榛原文化センター関連）▶ポーラ跡地と中央幹線▶総合運動公園ぐりんばる▶広域農道▶航空機騒音問題▶小学校スクールバス▶茶業▶市ホームページ（借金時計、防災情報）▶防災対応▶病院対応▶医師確保	111人
細江	21日(日)	▶水害対策▶一ノ谷と二ノ谷の経緯▶町内会管理の排水ポンプ▶要望書の取り扱い▶環境保全センター▶要援護者の避難訓練▶繁茂した雑草などの除去▶細江小学校南側の大木	70人
勝間田	25日(日)	▶畑総事業賦課金▶耕作放棄地の地目変更▶青農地の農振除外▶マダニ対策の周知	75人
坂部	31日(日)	▶空港隣接地域賑わい空間創生事業▶小学校の統廃合	40人
		計	713人

*各会場の会議録は、市ホームページや両庁舎の情報公開コーナーで閲覧できます。

▼ワークショップによる意見交換（萩間地区）



▼市長による市政説明（勝間田地区）



北側の開発については、土地区画整理事業の実現に向けた準備組合が今年2月に設立され、市も今年度から開発区域の西側に事務所を開設し、新拠点整備室を配置しました。今後は地権者などへの説明を継続しながら、土地利用のルールや計画づくり、業務代行予定者の選考などに向け、スピード感を持って取り組んでいきます。

外国人出入国者数が地方空港トップの富士山静岡空港では、増加する海外からの訪日客をさらに取り込むため、現在ターミナルビルの拡張工事を実施しています。

来年10月に工事が完了すると、これまで1時間に1便し

か発着できなかった国際線が3便まで対応可能になります。保安検査場も増設され、より便利で使いやすい空港に生まれ変わります。

こうした空港を持つ強みを生かした「MIJBC」事業が具体的に始動しています。これは、中国資本を日本へ呼び込むもので、今年度から「しずおか中部連携中枢都市圏」の広域プロジェクトとして、静岡市と協力しながら積極的に働きかけを行います。

さらに、これらの事業を通じて、牧之原市は2020年東京五輪・パラリンピックにおいて、中国を対象国としたホストタウンに登録されまし